

家族への感謝を込めて 「愛親 ありがとう 弁当」



笑顔の集合写真



保護者代表 挨拶で西野夏葉さんは「三年間の集大成となる自信作をいただけることに出席することを楽しみにしていました」と笑顔で話した。担任の堀先生は「色々な調理技術を



家族へ手紙を渡す

一月三十日に三年食料科の謝恩会が行われた。保護者は、十時半から十一時半まで第一調理室で実習の様子を見学した後、シアターへ移り謝恩会に参加した。謝恩会のために作られた弁当は「愛親(ありがとう)弁当」。この名前には親への愛情と感謝の思いが込められているそう

だ。弁当の下には二年生の時に手作りした刺し子のランチョマットが敷かれていた。弁当のメニューは計十四品。これまで作ってきた思いのある品々を詰め込んだ。生徒達は担当したおかずについて「油淋鶏は肉の味付けとたれにこだわったのでそこを楽しんでほしい」「ハンバーグはふわふわに仕上げのために豆腐を入れるなどの工夫をした」等と順番に説明した。



- お品書き
- 筑前煮
 - 油淋鶏
 - かき揚げ
 - ハンバーグ
 - オムライス
 - 飾り寿司
 - 菊花かぶ
 - だし巻き卵
 - 春巻き
 - かきたま汁
 - オープン稲荷
 - 蛇腹きゅうり
 - 黒ゴマプリン
 - バナナ大福

身につけて向上してきたことに改めてびっくりさせられた」と嬉しそうだった。最後は生徒から家族へ三年間の感謝を込めた手紙が渡された。

た。感動で泣いてしまふ親子もいたが、記念写真を撮る時には皆がとて面白い笑顔になっていた。こうして食料科の最後の授業が終わった。

西上璃虎さんは「調理とは別の仕事に就くが、これからも仲間と協力して何かを作るといふ経験を活かしていきたい」と語った。西上さんの保護者は「こんなプロミたいな料理を作っているとは思わなかった。調理をする姿を見たのは初めてでもかつこ良かった」と誇らしそ



華麗に舞台を歩く姿

三月三日、神戸市の神戸朝日ホールにて全国高校生ファッションデザインコンテストが行われ、生活情報科二年の松村早夏さんの作品が優秀賞に選ばれた。松

村さんは自身が描いたデザイン画どおりに実物製作し、本番では自らがモデルとなつて舞台を歩いた。テーマは「和装」。着物生地を用いたり、和紙に墨で文字を書



衣装を作る松村さん

いたりして表現した。大会前、松村さんは「龍を作ることに、花の模様を縫うことが大変」と話していた。龍は針金で骨組みを作り紙粘土で肉付けをした。花のモチーフをたくさん作り、丁寧に生地を縫い合わせ、家で縫製して約一ヶ月かけて作製した。ショー

コンテストが終わつて松村さんは「初めて自分のデザイン画を形にした。納得のいく布地が見つからなかったり、同じ作業の繰り返しを感じた。りと大変さを感じた。全ての工程を一から体験することはとてもいい経験となつた。これからの賞を取れるよう頑張りたい」と意気込んだ。また「衣装作りを手伝ってくださった小林先生にはとても感謝を込めて」と語った。

服のチカラプロジェクト 日本から世界の難民に届ける



手作りの回収箱

「届けよう、服のチカラプロジェクト」に生活情報科と食料科の二年生が参加した。このプロジェクトはユニクロとGUが全国の学校と連携して行っているもので、本校では地理総合の授業の一環で取り組んだ。レビアや地元の小中学校など十一箇所に回収箱

を置かせてもらい、手づくりのチラシで協力を呼びかけるなど熱心に取り組んだ。結果、計三〇二五着もの子ども服が回収された。参加した生徒は「集まるか心配したが、予想をはるかに超える衣服が集まって良かった」「届けられた服を着る子ども達を想像すると嬉しい。少しでも生活が良くなってほしい」「自分から何かアクションを起こすことはとても大切だと思った」等と語った。



3025着の衣服が集まった

し、現地で暮らす難民の方に直接届けられた。この活動を通して、難民問題に関心を持つ人が増え、世界が良い方向へ変わっていくことを願ってやまない。